



技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部 秋季号<第149号> (令和8年10月15日発行)



まちの魅力やポテンシャルを可視化する都市政策「コクラBEAT」

2回目となる「コクラBEAT2025」を、令和7年11月21日から12月25日の35日間、北九州市小倉北区の小倉城・紫川周辺で開催しました。期間中は153万人が来場し、経済波及効果は直接・間接あわせて115億円。イベント単体としても大成功でした。

しかし、この事業は単なるイベントではなく、若い世代のエネルギーやまちの動きを「鼓動」に見立てて可視化する都市戦略の第一ステップです。

行政の財源を呼び水としながらも、民間からの投資と拠出を中心として事業を展開しており、さらなる広域集客と民間投資を呼び込むという経済の好循環を目指しています。

ひらの けん (建設、総合技術監理・北九州)

目次

巻頭言	1	修習技術者の声	10
私の提言	2	中央・統括本部情勢	11
声の広場	3	委員会・部会報告	12
若手技術士の声	5	支部だより	17
土木遺産シリーズ(45)	6	CPD報告	19
関門海峡歴史シリーズ	7	会員ニュース	21
ミニ特集	8	協賛団体会員	23

「共創の力」を生み出す「創造性」 建築教育から考える、技術者に必要な創造性

鹿児島工業高等専門学校長 ^{どうち}道地 ^{けいこ}慶子
(M.A. 芸術学・鹿児島)



日本では多くの建築系学科が工学部に設置されています。建築物は物理法則に従う構造物であり、安全性や耐久性、機能性を確保するためには、構造力学や材料、施工、環境などの工学的知識が欠かせません。特に地震や台風など自然災害の多い日本では、工学を基盤とした建築教育が発展してきました。

一方、海外には建築を芸術分野として位置付ける大学も多くあります。教育では、構造や施工だけでなく、文化、歴史、景観、空間体験、人間の感性などが重視されています。これは、人々の暮らしや社会を形づくる文化的・創造的な営みとして捉えているためです。つまり建築は、科学と芸術、工学と人間社会をつなぐ学問と言えます。安全で機能的な建築を実現するには技術が必要ですが、人々に愛され、地域に根付く建築を生み出すには、感性や文化的理解も不可欠です。工学的な「つくる力」と芸術的な「価値を見出し表現する力」の両方があるこそ、社会に届く建築になるのです。

近年注目されるSTEAM教育は、そのような学際的な学びを体現するものです。Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Arts（芸術）、Mathematics（数学）を関連付け、複雑な課題に多角的に取り組む力を育てます。人口減少や脱炭素、防災、地域活性化といった課題は単一の専門性だけでは解決できません。専門性を深めながら、異なる分野や価値観をつなぐ能力が求められています。

私自身、芸術大学で「建築は総合芸術である」という理念のもとで学び、さらにイギリスで都市や景観を社会的文脈から捉える教育を受けました。その後、工学教育を基盤とする高等専門学校で地域と連携した建築教育に携わってきました。学生とともに地域資源を活用したデザイン提案や商店街活性化の仕組みを検討し、その効果をアンケートや利用状況などのデータによって分析・評価します。また、AIを活用して、歴史に埋もれていた景観資源を可視化する取り組みも進めています。そこでは、建築、情報技術、地域社会、歴史、デザインが結び付き、技術を通して地域の価値を再発見しています。

こうした実践を通じて強く感じるのは、これからの技術者に求められる創造性の重要性です。創造性とは奇抜な発想を生み出すことだけでなく、異なる知識や技術、人々の思いを結び付け、社会にとって新しい価値を生み出す力です。そのためにまず必要なのは、「答えを出す力」だけでなく「問いを立てる力」です。例えば学校施設を計画する際、安全性や経済性を満たしながら教室を配置することは重要です。しかし本質的には、「学校とは何のための場なのか」「学びは教室の中だけで行われるのか」「地域とどのような関係を築くべきか」といった問いを考える必要があります。こうした問いから、交流や発表、地域活動にも活用できる共有空間を中心とした新しい学校像が生まれるかもしれません。創造性とは既存条件の中で最適解を探すだけでなく、条件そのものや意味を見直す構想力でこれまで見えていなかったよい問いを社会に投げかけます。

次に重要なのは、異分野をつなぐ力です。深い専門知識は技術者の土台ですが、それだけでは社会課題に十分対応できないでしょう。異なる分野の知見を結び付けることで、新たな発想や解決策が生まれます。また、人間や社会を理解する力も欠かせません。どれほど優れた技術であっても、利用者や地域社会に受け入れられなければ、その価値は十分に発揮されないからです。技術士に求められる役割も同様です。専門知識を活用するだけでなく、社会の課題を発見し、多様な条件を整理しながら、倫理的・経済的・環境的視点を踏まえた実現可能な解決策を提示することが期待されています。そのためには数値で評価できる性能だけでなく、人々の感情や文化、歴史、地域性といった定量化しにくい価値にも目を向ける必要があります。これからの工学教育に求められるのは、知識や技術の習得ではありません。異なる分野や立場の人々と対話し、自らの前提を問い直し、まだ答えのない課題に挑戦する経験です。そのような学びを通してこそ、学生は専門性を社会的価値へと結び付ける力を身に付け、自分にしかできない役割を見いだしていきます。専門性を軸としながら分野の境界を越えて考える力、技術と感性、理論と実践、科学と文化を結び付ける力。それこそが、これからの技術者や技術士に求められる「共創の力」を生み出す「創造性」ではないでしょうか。

技術者としてあるべき姿

ま と り よ し ひ ろ
真鳥 喜博

(建設、総合技術監理・長崎)



1. はじめに

2026年（令和8年）7月28日16時27分頃、熊本県でマグニチュード7.1の地震が発生し、熊本県で震度7、私が生活している長崎県で震度5強が観測され、熊本県を中心に甚大な被害が生じました。

まずは、このたびの「令和8年熊本地震」でお亡くなりになられた方々に心から哀悼の意を表するとともに、被害を受けられた方々に心からお見舞いを申し上げます。

社会資本の整備にかかわる技術者は、建物や社会資本インフラ等の一日も早い復旧、被災者が日常を取り戻すための一日も早い復興に、これまでの大規模な災害と同様、総力を挙げて尽力する使命があると思っています。

2. 技術者としてあるべき姿

さて、技術者としての姿勢、あるべき姿と言っても良いと思いますが、私が日頃感じていることを、「私の提言」として述べさせていただきます。

技術者との議論、あるいは技術者の意見を聞く場でよく見受けられるのが、「他人の意見に全く耳を傾けず、自分の考えが絶対に正しい」という考えを持っていると思われる技術者が少なからず存在することです。

そのような技術者は、豊富な経験や高度な知見を有していることには違いないと思いますが、例えば、自分と考え方が異なる技術者に対して、全く相手の考え方やその根拠について聞こうとせず、理解しようともせず、自分の考え方のみを一方的に押し付けて、自分は正しい、相手は間違っているとの考えで相手を論破することを第一に考えているなど、あたかも勝負の勝ち負けを決めるような姿勢になっているのではないと思っています。

このような場面に遭遇すると、同じ技術者としては、とても聞き苦しく、また、腹立たしく、さらにはとても恥ずかしく思ってしまう。

極端な話、もうこの人の話は聞きたくない、この人とは話をしたくない、自分の意見も言いたくない、もっと言えば、この人とは二度と関わりたくないと

も思ってしまう。

なぜこのようなことになってしまうのか、を自分なりに考えてみましたが、このような方は、ひとりの技術者と言うよりも、ひとりの人間として、他人の意見や考え方に対し、真摯に耳を傾けるという姿勢が十分ではないこと、また、自分の意見や考え方を变えることについて、それは自分が負けを認めることになると考えていること、が理由ではないかと考えています。

それでは技術者としてどうあるべきなのか、と考えてみた場合、考え方が異なる技術者と接した際、その技術者の味方をするとしたら自分はどうか対応するか、と仮定して考えて見てはいかがでしょうか。

味方をするからには、どのような根拠に基づいているのかを十分に把握する必要があるとともに、自分の経験や知見が本当に最新のものと間違いのないかも確認する必要があり、そのためには、相手に寄り添った十分な対話が必要であると考えます。

この対話の実行により、技術者としての能力が向上するとともに、技術者として、人として尊敬される人物になるのではないかと考えます。

私自身もそうですが、皆さんも今一度、自分の胸に手を当てて、思い当たる節がないか考えてみてはいかがでしょうか。

3. おわりに

技術者は、経験を重ねると、あるいは年齢を重ねると、これまでの経験や自身で学んだ知識から、自分の考えは正しい、自分は間違っていない、と考えがちではないかと思っています。

しかしながら、技術者としてあるべき姿を考えると、自分自身が技術者として、本当に最新の知見を有しているのか、最新の社会情勢を踏まえているのか、ということを考えるべきではないでしょうか。

今回、「私の提言」の執筆依頼をいただきましたので、「技術者としてのあるべき姿」について自戒の念も込めて述べさせていただきました。

所属：長崎県土木部都市政策課

(E-mail : y.matori@pref.nagasaki.jg.jp)

伝統的で近代的な 防災技術へ

まつき ひろただ
松木 洋忠

(建設、総合技術監理・北九州)



1995阪神・淡路大震災や2011東日本大震災と津波が発生、2015以降は死者を伴う水災害が頻発化・激甚化しています。タニンゴトだった災害への意識を、日本社会が取り戻そうとしています。

日本の防災意識のルーツともいえる古典があります。南北朝時代の1349に吉田兼好が書き綴った『徒然草』の第百二十三段です。

「思ふべし、人の身に止むことを得ずして営む所、第一に食ふ物、第二に着る物、第三に居る所なり。人間の大事、この三つには過ぎず。饑えず、寒からず、風雨に侵されずして、閑かに過すを楽しむとす。たゞし、人皆病あり。病に冒されぬれば、その愁忍び難し。医療を忘るべからず。薬を加へて、四つの事、求め得ざるを貧しとす。この四つ、欠けざるを富めりとす。この四の外を求め営むを奢りとす。四つの事儉約ならば、誰の人か足らずとせん。」

ここには、日常の「衣食住」の楽しみに加えて、「薬」つまり非日常への事前の備えがあってこそ富んでいるという心構えが示されています。この四つ以外を求めるのは奢りだとも。

処世訓として、『徒然草』は江戸時代のベストセラーだったそうです。当時の知識人、武士や僧侶とともに、村々の自治を任されていた庄屋たちも読んでいたことでしょう。太平の世の農村に生きた彼らが最も恐れていたのは自然災害です。村々では、生活と生産を病（災害）から守るための普請に余念がありませんでした。そんな情景を描いたのが、司馬遼太郎が1986に出版した「土と石と木の詩」です。

「日本は、普請の国である。普請は、土木のことをいう。ことばとしては十三世紀ごろに浙江省あたりから入った宋の音で、当初は建築ということもふくめてついていた。戦国時代になると、建築をきりはなして、これを作事とよぶようになった。城ならば、その土台のいっさいをつくる土木は、普請奉行がやる。その上にのせる楼閣などの建造物をつくるしごとは、作事奉行のうけもちである。(中略) 私どもは、いちいちの小さな農民のレベルにおいて、石

を積み、溝をひき、井堰をつくり、土塁を版築するというこまごまとした土木を営んできたひとびとの末裔なのである。」

江戸時代の社会の基盤は、村単位の共同作業です。村民は普請に加わり、農のサイクルに連動した防災インフラの整備と管理を担いました。日常の中に非日常への備えが内包されていました。それでも被災する場合には幕藩領主による救済が行われました。災害が避けられない自然条件の下でも持続する社会が構築されていたといえます。

明治維新以降は、行政による治水事業が推進されるようになりました。富国强兵・経済成長を目標として防災インフラへの投資が行われました。1959伊勢湾台風までは死者1,000人を超える自然災害が続きましたが、その後、大災害のない「幸運な36年間」を経験しました。高度成長期はこの期間に当たり、同時に日本社会の防災意識が変化しました。宮村忠は1985の『水害』で分析しています。

「社会的には、近代合理的な機能分化が進み、治水を担当する者とその受益者の連携は稀薄となった。水害が起これば行政の怠慢だけが指摘攻撃されるようになり、より大規模な治水工事のみが要請された。そして、人命被害から道路上のわずかの冠水まで区別なく水害と意識されるようにさえた。そうした状況の中で、治水の観点でみれば、きわめて無秩序な都市化、土地利用が著しく進展しつづけた。」

その後の日本経済は安定成長を迎えましたが、低平地や軟弱地盤など災害に弱い土地利用は続いています。これから極端な豪雨や渇水が増えてくると、被害がより深刻になってきています。「ここに50年以上住んでいるのにこんなことは初めてです」という被災者のコメントが増えていきそうです。

洪水被害は、自然条件と社会条件の相乗効果で発生します。近年、深刻な被害がより多くより激しくなっています。持続的な社会づくりには何ができるのか。防災インフラの機能を維持するとともに、住民が被災ポテンシャルを知り、防災をジブンゴトにすることが重要です。伝統的な日本の智慧を基にして、近代的な知見を使った防災技術が求められます。土木に関わる技術者として、自然科学的に効果があり、社会科学的にも意味のある防災技術の勉強と実装に努めていきたいと考えています。

所属：松木技術士事務所
(E-mail : matsuki84@gmail.com)

Ⅱ

自らのバイアス どう生かすか

いさみ ひでただ
勇 秀忠

(建設、CPD認定・熊本)



1. はじめに

放送大学修士科目生として発達心理学、教育心理学ほかを学んだ。業務は一線から遠のいたが若い技術者と接する機会はまだまだ多いし、コンクリートの不具合事象への現地調査など地場のゼネコンからの問い合わせで現場を調査して、報告書なども整理してコンクリート診断士資格が優位に働いている。

以下に、近況ではなく、人間のバイアスの理解と成長への考え方を自分なり少し述べたい。

2. 考えるより行動を

人間の成長に関して、「悪い人の真似はしない方がいい」これは当たり前のことであるがキラキラ輝いて成功談ばかり発信している人に憧れ、真似をしてみたけどなかなかうまくいかない。それどころか疲労感が漂う。

その原因は、その人の考え方や価値観、判断軸までも知らないうちに取り入れていることにある。人間は行動を起こすとき、「失敗したらどうしよう」「うまくいかなかったら恥ずかしい」といった不安に駆られる。その不安を和らげてくれる信頼できる人がそばにいてくれるだけで、行動のハードルは下がる筈である。

そして、自らが困難な状況に直面したときこそ、「誰かに相談しよう」と思える人の方が立ち直りは早いとされる。まして、一人ではできないことも他者との掛け算でできるようになる。すなわち「**バタフライ効果**」と呼ばれ、小さな初期条件の違いが将来的に大きな変化を生むとされる理論である。自分から「他者と関わろうとする姿勢」が相談することになり、他者の力を借りることによっていろんな選択肢が広がる可能性が高まる。人間が他者と協力し、支え合うことで集団として繁栄してきたことは確かであろうし「**返報性の原理**」が存在する。

「もらったお返しをする」という心理的傾向である。人間が現状維持を好むことは心理学で「**現状**

維持バイアス」と呼ばれ、人間の脳に刻まれた性質の現れと言われている。

ただ、この返報性の原理には負の側面が存在する。いやなことをされたらやり返したくなるという反応である。いまの情報化社会、タイムパフォーマンス、コストパフォーマンス意識が蔓延していて、損得勘定で考える世の中になってきている。だからこそ損得勘定の「下心」を捨て、関わるすべての人に対して「真心」で接し、信頼のつながりを強化することがひいては自分自身を助けてくれるに違いない。

また、「自分の行動や失敗が、他人にとっても強く印象に残るに違いない」と思い込んでしまうことを「**スポットライト効果**」と言う。これに係る多くの研究結果から自分が感じているほど、他人は自分や振る舞いに注意を払っていないという結果が示されてもいる。人間は誰も世の中を無色透明に見ることができないといわれ、それは人間が常にバイアスというフィルターを通して見るからであり、「色眼鏡」をかけて世の中を見ているからであろう。

自分が他人より優れていると思い込んでしまうことを「**優越の錯覚**」といい、これもバイアスの一つで「自分は平均以上」と自負している人間は世の中の7割以上という研究成果もあり、知能に自信を持っているであろう学者等では9割で「自分は他の学者より優れている」という報告もある。

いろんな価値観やそれぞれの捉え方があるにせよ「譲る方がいい塩梅でカッコいい」と映るのではないかと思う。やり合って論破してもいいことはないような思いがする。

3. おわりに

最後に話は飛ぶが、いま熊本では時代劇の「水戸黄門」が放映されている。江戸時代の水戸藩主・徳川光圀が身分を隠して全国を漫遊しながら、「悪を懲らしめる」痛快さが実に面白い。

助さん、格さんの「ここにおわすは天下の副將軍水戸光圀公にあらせられるぞ」と印籠が光る。今の世の中でもお願いしたいものである。

株式会社ウラタ・シビル・コンサルタント
(E-mail : h-isami@urata-cc.jp)

若手技術士の声

まつばら君が歩む道

まつばら たけし
松原 武志
(建設・長崎)



◆はじめに

若手技術士として日ごろ感じられていること、業務の中で感じる技術士の役割、今後取り組みたいことなどの声をお寄せ下さい。という温かいお題をいただき、今回ペンをとらせていただきました。

私の歩みを少し振り返らせてください。工業高校を卒業して現場の施工管理から歩み始め、現在は建設コンサルタント会社で国が発注する工事の発注者支援業務に従事しています。その中で、働きながら大学や大学院でのリカレント教育（学び直し）を経験しました。

現在は、大学のエンジニアリング課程へ3年次編入学し、さらなる専門知の習得に励んでいます。

◆日ごろ感じていること

これらの諸活動を通じて強く感じるのは、社会的なニーズの発生から価値提供に至るまでのリードタイムの短さです。さらに、教科書通りの解決策が通用しない現代において、技術者に求められる役割は日々高度化しています。

◆業務の中で感じる技術士の役割

自身の専門分野を深く突き詰めつつ、他専門分野の技術士とも連携し、多角的な視点から物事を捉えて最適解を導き出すこと。それが、日々の業務の中で痛感する技術士の本質的価値です。

特に、若手世代には「巨人の肩の上に立つ」という言葉通り、先人が築き上げてこられた確かな技術的基盤や知見を謙虚に継承しつつ、現代の技術進歩に応じた柔軟な発想を組み合わせ、専門性の垣根を越えて協働するフロンティアスピリットが期待されていると感じています。

◆若手技術者が直面する課題

ベテラン世代から若手世代への技術伝承の難しさも、多くの組織が抱える切実な課題です。

技術士という社会的責任の大きな資格の価値を次世代へ確実に引き継ぎ、さらに高めていくためには、単に個人のスキルアップに留まらない、組織や地域社会全体を巻き込んだ環境づくりが急務であると考えます。

◆今後取り組みたいこと

では、これからの時代において、我々若手技術士はどのように歩みを進めるべきでしょうか。私が今後最も取り組みたいのは、「世代間と分野間の垣根を越えた、フラットな知の共有プラットフォームの構築」です。変化の激しい現代において、所属企業や業種の枠を飛び越えて、若手・中堅・ベテランがフラットに議論し、失敗を恐れずに新しいアイデアをぶつけ合い、そこから新たなシナジーを生み出す場を、技術士会の活動を通じて広げていきたいと考えています。

◆次世代へ技術の魅力を伝える

写真－1は社内研修会での登壇状況です。インフラの維持管理を担う社内の次世代育成に加え、未来を担う子供たちや学生たちに対しても、技術者という仕事の面白さや社会的意義を伝える「アウトリーチ活動」にも注力したいです。インフラやものづくりのやりがいや魅力を自分の言葉で次世代に伝え、未来の技術者を育みたいのです。



写真－1 社内研修会でのまつばら君

◆循環的な学びの重要性

私が経験してきたリカレント教育は、まさに新しい知識を血液のように循環させ、自らをアップデートし続けるための手法です。今後も大学等での学びを深めつつ、得られた知見を業務や技術士会の活動を通じて社会に還元し、アジャイルかつ柔軟に立ち回ること、多様な不確実性に対応できる技術者でありたいと願っています。

◆おわりに

先輩方が築いてこられた信頼という礎を大切に守りつつ、自分を信じ、楽しみながら、地域社会の持続的な発展に貢献していく所存です。

日々の研鑽と誠実な技術対応を通じて、誇りある技術士の道を一步ずつ着実に歩んでまいります。

所属：株式会社九州建設計画エンジニアリング
(E-mail : matsubarakun@kyudai.jp)

還暦を迎えた天草五橋

たかやま ゆうじろう
熊本県支部長 **高山 祐二郎**
(建設、CPD認定・熊本)



天草五橋は、熊本県宇土半島先端の三角^{みすみ}から天草諸島の大矢野島、永浦島、池島、前島を経て天草上島までを、それぞれ異なる構造の5つの橋で結ぶ宇城市から上天草市にかけて17.4kmの連絡道路であります。

(1) 土木遺産としての位置づけ

昭和41年（1966年）に完成し、近代日本の橋梁技術と地域振興の歴史を示す価値ある土木構造物として評価されています。



当時の日本の橋梁技術は欧米に遅れているとされていましたが、その中で天草五橋は最新技術を導入した先駆的な橋梁群として注目されていました。

(2) 橋梁の概要

① 1号橋（天門橋）：連続トラス形式

橋長502mで中央スパン300mを有し、鋼3径間連続トラス橋としては、当時世界的に規模の大きいものでありました。海上部にある中央径間部の架設に対しては橋脚からトラバークレーンを用いて片持ち式に架設していき中央で閉合するという方法がとられ、このような長径間の片持ち架設は、わが国では初めての試みでありました。



② 2号橋（大矢野橋）：ランガートラス形式



橋長249.1mで、ベージュ色の大きなアーチが特徴の鋼橋、完成当時は日本最大支間のランガートラス橋として知られていました。

③ 3号橋（中の橋）：PCラーメン形式

橋長361mで、中央ヒンジ付き3径間連続PC橋で



架設は国内初となるカンチレバー工法が採用されました。周囲は入り組んだ島と海が近く潮流もある狭い海峡部を跨ぐ位置に建設され干満の差が大きい場所でした。

④ 4号橋（前島橋）：PCラーメン形式

橋長510.2mで、中央ヒンジ付き5径間連続PC橋で、地震の多いわが国では、スパンが100mをこえる



ような橋になると、まず鋼橋というそれまでの常識を破り、スパンが150m程度になってもコンクリート橋が十分経済的に架設され得るということを如実に示したものとして注目を集めました。

⑤ 5号橋（松島橋）：パイプアーチ形式

橋長177.7mでパイプ断面をもつ力学的特長をい



かんなく発揮したアーチ橋であって、わが国における大型パイプ部材の橋梁への適用例のはしりともいべき橋でありました。

(3) 今後の課題

天草五橋は高度経済成長期の代表的な土木遺産であり、今後も老朽化対策として計画的な点検・補修と交通規制影響の最小化、景観・観光との両立が最大の課題であり、鋼部材の防食更新やコンクリートの補修、耐震補強など長寿命化を図る維持管理が求められています。

天草五橋を通る国道266号は、道路の幅員が狭く、急カーブが多く走行上問題があったほか、九州本土と天草諸島を結ぶ唯一の陸路として、事故や災害の際に交通支障が発生する問題を抱えていた。その解決のためリダンダンシーの視点から「熊本天草幹線道路」が計画され、防災・危機管理の面からバイパス道路が整備中であります。



現時点では、1号橋に並列する新橋（天城橋）が建設されましたが、2号橋から5号橋の代替機能を果たす整備は未完成なので早期完成が期待されています。

所属：株式会社ジョーナンテクニカル
(E-mail: takayama-y@ab.auone-net.jp)

関門海峡歴史シリーズ

潮流解析による関門海峡史の再評価～概要編

にし い やすひろ
西井 康浩

(フェロー、建設、CPD認定、博士(工学)・北九州)



1. 本シリーズのまえがき

本研究は、関門海峡を舞台とした三つの歴史的出来事を対象に、関門海峡の流れ場を最新の数値モデルで再現し、潮流が伝承にどのように影響したかを工学的な視点から再検証したものです。本シリーズは全4回で構成し、第1回は本研究で採用した数値モデルの概要を解説します。続く第2回では平家滅亡に関わる壇ノ浦の合戦、第3回では巖流島の決闘、第4回では幕末の下関戦争を取り上げる予定です。

2. 歴史の舞台として登場する関門海峡

図-1に示す関門海峡は、一日に4回潮流が変化し、流向は約6時間ごとに東西に入れ替わる海域です。なかでも最狭部の早鞆瀬戸では、最大で10ノット近い急潮流が発生し、古来より航行の難所でした。現在では一日に約千隻もの船舶が通航します。



図-1 関門海峡鳥瞰図（出典：Google Earth）

小説家の司馬遼太郎は『街道をゆく～長州路』の中で、「私は日本の景色のなかで馬関（下関）の急潮流をもっとも好む」と記しています。関門海峡は古くから人・物・情報が行き交う結節点で、歴史の転換期に幾度も登場する地政学上最も重要な海域です。

3. 研究手法に採用した数値モデルと境界条件

本検討は、九州大学の沿岸海洋工学研究室と共同研究で実施したものです。研究全体は山城賢教授が統括し、数値解析と精度検証を井手善彦助教が担当し、筆者は史料考証を受け持ちました。

解析には海洋流動モデルFVCOM(Finite Volume Coastal Ocean Model)を用いました。このモデルは非構造格子、 σ 座標系および三次元有限体積法を採用しており、複雑な海岸線や海底地形を高精度に再現できる一方、計算負荷が大きい特徴を有します。

支配方程式は、式-1の連続式（質量保存則）と式-2～4の運動量保存式（ナビエ-ストークス方程式）から成ります。主な物理因子は、時間、流速、水位、コリオリ力、海水密度、静水圧、大気圧、渦粘性係数、水平拡散係数などです。この4つの方程式

$$\frac{\partial u}{\partial x} + \frac{\partial v}{\partial y} + \frac{\partial w}{\partial z} = 0 \quad \text{式-1}$$

$$\frac{\partial u}{\partial t} + u \frac{\partial u}{\partial x} + v \frac{\partial u}{\partial y} + w \frac{\partial u}{\partial z} - f v = -\frac{1}{\rho_0} \frac{\partial (p_a + p_s)}{\partial x} - \frac{1}{\rho_0} \frac{\partial q}{\partial x} + \frac{\partial}{\partial z} (K_m \frac{\partial u}{\partial z}) + F_u \quad \text{式-2}$$

$$\frac{\partial v}{\partial t} + u \frac{\partial v}{\partial x} + v \frac{\partial v}{\partial y} + w \frac{\partial v}{\partial z} + f u = -\frac{1}{\rho_0} \frac{\partial (p_a + p_s)}{\partial y} - \frac{1}{\rho_0} \frac{\partial q}{\partial y} + \frac{\partial}{\partial z} (K_m \frac{\partial v}{\partial z}) + F_v \quad \text{式-3}$$

$$\frac{\partial w}{\partial t} + u \frac{\partial w}{\partial x} + v \frac{\partial w}{\partial y} + w \frac{\partial w}{\partial z} = -\frac{1}{\rho_0} \frac{\partial q}{\partial z} + \frac{\partial}{\partial z} (K_m \frac{\partial w}{\partial z}) + F_w \quad \text{式-4}$$

を解くことで、3方向の流速成分（潮流）と水位（潮位）が求められます。地形条件はオランダの測量海図（1857年頃）や旧日本海軍の海図（1894年刊行）を参考に、現代の埋立地や港湾施設等を除去した上で、浚渫箇所を自然勾配に復元しています。

次に境界条件です。潮汐は太陽と月の引力および遠心力によって生じるため、関門海峡両側の響灘と周防灘の検潮所データを用い、フーリエ級数による調和分解により約60分潮を設定します。この分潮を境界条件に与え、計算上で千年前まで遡ることににより、当時の潮位や潮流を再現します。これを可能にするのは、太陽や月の天体運動が千年前と現在で本質的に変化していないからです。一方、気象条件を数百年前まで正確に遡って再現することは困難です。例えば元寇（文永・弘安の役）の“神風”について、台風であったのか冬季風浪であったのかを現在の技術で特定することは容易ではありません。

4. 今後の展開

今回は潮流を再現・予測する専門的な内容を紹介するものでした。次回以降は、歴史的出来事にまつわる伝承や通説について、その真偽を検証して行きます。まずは貴族社会から武家社会への転換点となった壇ノ浦の合戦です。従来は潮の転流や急潮流が源氏方に有利に働いたと言われていましたが、真実はどうだったか？ 次回は、これを考証して行きます。

所属：西井技術士事務所

(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

ミニ特集 『趣味・特技、社会貢献、心に残る言葉・出会いなど』

インフラをもっと身近に。

情報発信の相棒

『ヤギオ』とともに

やぎ たかし
八木 孝志

(下水道、総合技術監理・福岡)



私には「ヤギオ」という情報発信の相棒がいます。堅く、難しくなりがちなインフラの話を、もっと身近に伝えたい。そんな思いから、ヤギオとともに情報発信をしています。その根底にあるのは、「私たちは次の世代に、どのようなインフラを残すのか」という問いです。

この問いの原点の一つが、九州のとある町で仕事をしていた頃の経験です。地域を歩けば、シャッターを下ろした店が目に入る。一方、私たちは専門家として自治体から決して小さくない金額の業務を受託する。「この仕事は、本当に地域の未来につながっているのだろうか」。その疑問が、最初の転職を決意するきっかけとなりました。

その後、ベンチャー企業に移り、公共事業に「参加すること」の難しさを知りました。良い技術やア

イデアがあっても、実績や資格、組織体制などの信用がなければ、スタートラインに立つことさえ難しい。公共を支える制度の必要性和、新たな挑戦を生み出す難しさの両方を実感しました。

次に身を置いたエンジニアリング会社では、ものづくりの最前線へ。事業運営を通じ、品質、安全、安定、そして利益を守りながら施設を安定操業させる責任と、ものづくりへのこだわりを学びました。同時に、企業としての合理性と「公共の福祉」をどう両立するのかを考えるようになりました。

そして現在は、コンサルタントとして再び事業体を支援しています。今は施設や業務だけでなく、地域の人口、財政、人材、そして将来の姿まで考えるようになりました。「何を造り、何を守り、何を次の世代へ引き継ぐのか」。その答えを事業体の皆さんと考え続けることが、技術者の役割だと思っています。

時代の変化に対応しながら、技術士としてエンドユーザーと行政、そして現在と次世代をつなぐ存在でありたい。これからもヤギオとともに、インフラの大切さを身近な言葉で伝えていきたいと思います。

所属：株式会社日水コン

(E-mail: yagi_t.mr@nissuicon.co.jp)

暮らしてわかる ユーザーニーズ

たなか つよし
田中 剛
(機械・佐賀)



幼いころから動くものが好きで、自転車、バイク、自動車とメカ好きの道を歩んできました。そんな私ですが、2024年から2年間、ドイツ南部のクライルスハイム(Crailsheim)という街に駐在する機会を得ました。ドイツでは、週末になると各地へ出かけました。速度無制限区間で有名なアウトバーンや郊外の100km/h制限のおかげで流れが速い一方で市街地は一転して30km/hや50km/h制限となります。市街地入口付近や道路脇には移動式オービスも多く1km/hの超過で速度違反です。直前の100km/h走行から一気に減速し、通過後は再び100km/hまで加速することが求められます。もたもたしていると後続車にあおられることもあります(笑)。ルールに厳格なドイツ人らしいですが、慣れるまではドキドキします。さらにドキドキするのが「ラウンドアバウト(Roundabout)」で、信号がなく、円形の中

央島を囲むように車両が一方通行で走行する交差点です。周囲の状況や車の流れに合わせながらタイミングよく進入し、右折・左折・直進方向へ進みます。ただし、付近の横断歩道に人がいれば必ず停止しなければいけません。歩行者優先の考え方が徹底されていて、人々はゆっくり横断しますが、焦ってはいけません。

2年間生活してみて、欧州車の高速域での操安性や制動性能の高さは、このような交通環境の中で快適に使用するために磨かれた技術だと実感しました。私は建設機械の開発に携わっています。海外市場ニーズはユーザーアンケートやWeb評価、最近ではAI分析などから効率的に把握できる一方で、実際の使われ方や工法を見聞し、周辺環境を自ら体験し、その土地で暮らし働く人々にとって心地よい製品になっているのか、何を大切にしているのかを理解し合うことが更に重要だと感じました。このような視点が今後も世界に広く受け入れられる日本のモノづくりにつながるのではないのでしょうか。今回の駐在生活は、改めて製品を考える貴重な機会となりました。

所属：ヤンマー建機株式会社

(E-mail: katashi_tanaka@yanmar.com)

ミニ特集 『趣味・特技、社会貢献、心に残る言葉・出会いなど』

陸上競技大会の公認 審判員として

広報委員 しみず まさあき
清水 正明
(建設、上下水道、総合技術監理・長崎)



私は陸上競技(長距離走)の選手として若い頃から長年取り組んで来た。42歳で35回目のフルマラソン大会に出場を機に選手としての引退を決意した。

競技引退を機に長年お世話になった陸上競技に対し、ご恩返しのため、日本陸連の公認審判員になることを決意し、C級を取得し現在はA級の公認審判員として、各種の陸上競技大会に従事している。最上、S級があるが、登録費が高いこと、また、「審判長」等、責任が重い立場になることなどにより、今の立場に留まっている。

小中学生の陸上競技クラブの指導者としての立場にもある。各大会には、必ず1名以上の審判員を出す必要があり、そのためにも、審判の資格が大いに役立って大会に貢献出来ていると考えている。



写真は、昨年の8月長崎マスタース陸上競技大会の時の3000m競技の「ミスト散布」の様を長崎新聞社が報道してくれたものである。スタッフとは私のこと。昨年の夏も今年と同様、すさまじい暑さで本来、「給水」は競技上許されるが、「ミスト散布」は選手に助力を与えることになり、「公認記録が取れない」ことになる。

しかし、あまりの暑さに「事故」を懸念し、公園管理者から、芝生散布用の「水まき」をお借りし、ミストとしたものである。これで、5000m競技も無事終了出来た。今年は、競技日を11月に変更したことは、言うまでもない。

所属：株式会社高松設計コンサルタント
(Eメール：natsc-se6@mable.ocn.ne.jp)

お大事に

ぬまち えいじ
沼地 英二
(建設・熊本)



今年の夏、手術し入院生活11日を経験した。今回で3回目の全身麻酔手術、そして入院となる。実は1回目が11年前、2回目が4年前、それぞれ別の病気が原因の手術である。

手術自体は、全身麻酔で眠っている間の手術のため、別に痛みや苦痛は感じない。「麻酔が入りますよ」という声が聞こえ、すぐに意識がなくなる。その後手術が終わり、「名前を呼ぶ」声がかすかに聞こえ、目が覚める。毎回のことであるが手術の前に、このまま目が覚めなかったら・・・と考える。だが聞こえると、毎回「生きている」といつも感じる。しかし、それからが大変になる。手術後の1週間程度は痛みが強く、身体は挿入された注射針や管などで拘束され、自由を奪われ苦痛を感じるようになる。1週間過ぎれば針や管が取れて身体は自由な状態となり苦痛も少し和らいでくる。また手術の翌日からリハビリを指導され、歩行も徐々に以前と同程度に回

復する。さらに退院までの2～3日間が、何もやることがなく退屈で、2畳程度の狭い空間が唯一の自分の空間であるが、寛げるところも無く自由がない苦痛と我慢の闘いとなった。

これらの手術は、59才、66才、70才で行っており、現役引退直前から引退後に発病したことになる。若い時は体力・気力があり発病もしなかったが、ある程度の高齢となれば体力も衰え始め、張り詰めていた緊張感から解放され気持ちにゆとりができる。これはあくまで私自身の考えであるが、病気はもともと自分の身体の内存在し休眠しているのではないか。それが人により何才で発病するかは異なるが、休眠している病気が何らかの要因で目覚め、発病すると思っている。私は病気にはこれから先ずっと眠り続けてもらい、これが最後であって欲しいと願う。

最後に、退院の日に看護師、スタッフさんからの「お大事に」という言葉を頂いた。醒めた目でみれば、業務上からの定型文的な言葉とも思うが、私には素直に「健康に注意して早く元気になって・・・」と聞こえた。この3回の手術とも、多くの医師、看護師、それからスタッフのみなさんには、大変お世話になった。感謝をすると共に御礼を申し上げたい。

所属：旭測量設計株式会社
(E-mail：numachi@asahi-sk.com)

20年後の答え合わせ

はま だ やすのぶ
濱田 恭暢
(衛生工学・鹿児島)



30歳を前に、新卒で入社した鹿児島県内の焼酎会社を退職し、就職浪人中に環境計量士の資格を取得しました。分析を業とする会社に片っ端から電話をかけた末に採用されたのが当協会で、早いもので25年が経ちました。当協会は浄化槽の法定検査を主な業務とする組織ですが、入社当時の私は「浄化槽」が何かほとんど分からない状態でした。

浄化槽についてご存じない方のために簡単に説明します。浄化槽には、トイレの排水のみを処理する単独処理浄化槽と、台所・風呂・トイレのすべての排水を処理する合併処理浄化槽があります。単独処理浄化槽は合併処理浄化槽の約8倍の汚濁負荷があるため、平成13年から新規の設置ができなくなりました。

入社して3年目の平成16年に、始良市（旧始良町）のモデル地区の調査結果を浄化槽技術研究集会

で発表しました。この地区の生活排水は浄化槽と汲み取り便槽のみで処理されており、合併処理浄化槽の整備率は約23%と低く、水路の水質悪化を招いていました。

それから約20年後、(公財)日本環境整備教育センターより、モデル地区の現状を改めて調査し「第10回アジアにおける分散型污水处理に関するワークショップ」で発表してほしいとの依頼を受けました。ちょうどコロナ禍の時期で、同時通訳付きのリモート会議で発表したことを思い出します。整備率は約69%まで向上しており、それに伴い水質も改善していることを示せました。翌年、この結果をもとに20年ぶりに浄化槽技術研究集会で発表したところ、最優秀賞をいただきました。埋もれていた調査研究を掘り起こしてくださった同センターの方々との出会いがなければ、この賞はいただけなかったと思います。

合併処理浄化槽の整備効果を示した調査報告は全国でも例がなく、環境省にも積極的に活用いただいていると聞いています。当時、調査を主導してくださった先輩、そして現在の調査に協力し発表してくれた部下に、心から感謝しています。

所属：(公財)鹿児島県環境保全協会
(E-mail:kankyuu_hamada01@kagoshima-ks.jp)

修習技術者の声

次なる一步へ

はた しゅうへい
畑 周平
(建設(修習)・佐賀)



私は建設コンサルタント会社に勤務し、主に河川分野の設計業務に携わっています。今年で4年目になりますが、まだまだ知識や経験が不足しており、先輩方に指導していただきながら業務を行っております。近年、豪雨災害が全国各地で頻発する中、私自身も災害復旧業務を経験し、被災原因の究明や早期の復旧に向けた取り組みの重要性を強く実感しました。

一方で、業務の中には資料収集や数量計算などの多くの時間を要する定型作業があり、現地の状況把握や技術的な検討といった、より本質的な業務に充てる時間の確保が課題でした。

そこで私は、生成AIとPythonを活用した業務効率化に取り組んでいます。最初は簡単なマクロ程度でしたが、現在はExcelへの図表の自動挿入や複数条件でのデータ照合など、実務に即した仕組みへと

発展させることができました。

この取り組みにより、手作業では見落としがちなミスを防げるようになったほか、確認作業に充てていた時間を、現地の状況把握や技術的な検討に多く割り当てられるようになりました。こうした経験を通じて実感したのは、効率化そのものは目的ではなく、生み出した時間をいかに活用するかが重要だということです。私は、生み出した時間を技術力の向上に還元できるよう心掛けています。

現在は、来年受験できる技術士二次試験を意識して業務に取り組み、生み出した時間を使って知識の再確認やアップデートを行っています。具体的には、業務の中で分からないことを調べたり、社会インフラの課題を整理してキーワード学習を行ったりしています。これらの学習が実務にも直結する手応えを感じており、勉強を継続することができています。

今後も、業務で培う知見とデジタルの視点を両輪として、社会インフラの課題解決に貢献できる技術者を目指し、日々の業務に励んでいきたいと思っています。

所属：九州技術開発株式会社
(E-mail:s.hata@kyugi.co.jp)

中央・統括本部情勢

理事会

理事会報告

にし い やすひろ
理事 西井 康浩

(フェロー、建設、CPD認定、博士(工学)・北九州)



2026年度第2回理事会が、7月9日、統括本部会議室において開催されました。今回は、私も会場に赴き、対面で参加してきました。

主な報告事項を5件程紹介します。

1. 第68回定時総会開催結果報告について【報告】

2026年6月15日に開催された第68回定時総会の結果について、報告がありました。主なものとして、このたび新たに外部理事と監査人それぞれ1名が役員として承諾されました。外部理事には九州大学未来人材育成機構教授の深堀聰子氏、外部監査にはシティユーワ法律事務所弁護士の江黒早耶香氏が、それぞれ就かれました。深堀先生には、昨年熊本で開催された全国大会の第4分科会で、『人材育成を考え行動し、自分も若者もはばたくチカラをつける』とのテーマで基調講演をいただきました。

2. 技術士議員連盟について【報告】

このたび、従来の与党国会議員による議員連盟を

『技術士議員連盟』に改編し、新会長に総務大臣の林芳正氏が就任されました。この連盟には国会議員39名が名を連ね、この内5名が技術士資格の保有者です。

3. 技術士CPD実績管理登録状況について【報告】

黒崎会長より、標記登録の進捗が当初の予定より遅れている現状について説明がありました。これによると、技術士CPD実績管理登録状況(2026/5/31時点)の内、記載申請者(正会員)の人数では、地域本部別内訳で九州本部は上位3番目でした。また、理事・監事の登録状況についても言及があり、率先垂範の観点から、理事・監事においては達成率100%を目指して登録を推進するよう強く要請がありました。

4. 総務委員会報告について【報告】

九州本部関係では、①九州地方整備局新技術評価支援WGの規則と同手引きの制定、②西日本工業大学との包括的連携・協力に関する協定の締結、この2件が総務委員会からの報告として紹介されました。理事会では、異議は出ませんでした。

5. 全国大会について【報告】

2026年度技術士全国大会は北陸本部が担当し、11月6日から9日にかけて金沢で開催されます。また2027年度は統括本部が担当し、東京で開催予定です。その式典小委員会メンバーの委嘱が報告されました。

所属：西井技術士事務所
(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

地域本部長会議

2026年度第1回 地域本部長会議報告

九州本部長 さ たけ よしろう
佐竹 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



2026年6月2日(火)機械振興会館(東京)で開催した2026年度第1回地域本部長会議の概要を報告する。

[統括本部より説明]

1. DEIアクションプランについて、2026年11月決定し、12月公表予定で進める。地域本部での作成は任意である。

2. 技術士議員連盟について、与党技術士議員連盟は5月に総会があり、技術士議員連盟として、役員の改選、規約の改定が行われた。

[地域本部よりの意見要望等]

1. CPD行事参加費の支払いで一括払い廃止のお願い(東北本部) 企業研修で参加する場合、研修費の精算がすぐにできないため→主催者側で都度支払を選択すれば、参加者は都度支払が可能となる。都度支払の業者については、過去個人情報漏洩事

件もあり統括本部での統一は難しい(統括本部)

2. 会員統計データ等の提供を要望します(東北本部) 日本技術士会への加入率50%を目標としたいが、登録技術士の数値が不明→今後はデータ提供の目的整理と必要項目の絞り込みが必要であり、事務局で現状の整理を行う(統括本部)

3. 地方公共団体から業務委託を受けることは可能か。好ましいか。可能ならどうゆうやり方をすればよいか(九州本部)→地域本部での業務受託は不可。日本技術士会長名での受託は可。地方自治体等から特命で依頼された場合のみで、社会貢献等の立場からやむを得ない場合等は統括本部に相談のこと(統括本部)

[報告事項]

1. 東北・中国・九州本部は、地域産学官と技術士との合同セミナーを、それぞれ2026年11月27日(岩手県)、9月19日(広島市)及び10月17日(福岡市)で開催予定。

2. 北陸本部は、第52回技術士全国大会(石川・北陸)を2026年11月6日～9日金沢市で開催予定。

3. 中部本部は、西日本技術士研究・業績発表年次大会(中部・愛知)を2026年11月27～28日名古屋市で開催予定。

所属：株式会社新世コンソーシアム
(E-mail: satake-yoshiro@ina.bbq.jp)

統括本部総務委員会

総務委員会報告

委員 もちだ 持田 たくじ 拓児
(建設・福岡)



2025-27期の第6回総務委員会と同地域小委員会が2026年6月17日に開催されました。

1. 「地域小委員会」

地域小委員会では、3件の審議事項と5件の報告事項について決議し、通年で議論している「委員会運営に関する規則」及び「役員等国内旅費交通費支給規則」の変更について、「規則改定の進め方」について議論しました。また、地域小委員会で審議した3件のうち2件は九州本部からの審議事項でした。

1-1. 「九州地方整備局技術評価支援WG規則・手引き」に関する審議事項

関東地方整備局技術評価支援WGで既に作成されている規則・手引きを基に確認し承認されました。また、各地域本部においても必要に応じて作成することが確認されました。

1-2. 「西日本工業大学包括的連携・協力に関する協定締結」に関する審議事項

協定締結に関する内容を確認し、承認されました。ただし、九州本部より提出した「連携・協力事項の事例・メニュー」に記載された「技術士試験講義」は、「本会役員および地域組織における役員の責務」の観点から適切ではない。との指摘を受け、「技術士試験講義」が実際の活動内容と異なることから、記載を削除することで認められました。

2. 「総務委員会」

総務委員会は、7件の審議事項と11件の報告事項について決議しました。

2-1. 「会員による活動グループ登録取消申請、新規登録申請、継続登録審査」に関する審議事項

会員による活動グループ登録取消申請については承認され、新規登録申請及び継続登録審査については、不備より再審議となりました。

2-2. 「事業計画策定及び予算管理に関する手引きの改定」に関する審議事項

文言の修正箇所があり、地域本部は対象外とする部分を明確化することから、再審議となりました。

所属：株式会社和晃地質コンサルタント
(E-mail: t-motida@wakou-tisitu.co.jp)

委員会・部会報告

総務・企画委員会

活動報告

委員長 すえまつ 末松 まさのり 正典
(機械、総合技術監理・北九州)



総務・企画委員会が所管する業務は以下に示す10項目である。

- (1)本部の組織・運営管理に関する事項
- (2)本部主催行事の企画・実施に関する事項
- (3)事業計画・報告案作成に関する事項
- (4)財務の管理に関する事項
- (5)統括本部・他地域本部・県支部及び他団体との連携に関する事項
- (6)役員会運営及び実施に関する事項
- (7)会員の顕彰に関する事項
- (8)会員拡大に関する事項
- (9)国際的活動に関する事項
- (10)その他、他の委員会の所掌にない事項

所管項目が多いため、委員12名を3グループに分けて対応している。2026年度は前年に引き続き活動を実施している。

1. 第1グループ；(4)(5)(6)(7)を所管。

- ・項目(4)：九州本部の予算と実行状況を把握し、適切に活動されているかに関して確認に努めている。
- ・項目(6)：県支部長会議や合同役員会等への出席を通し、情報収集と共有化を図っている。

2. 第2グループの活動；(2)(3)(5)を所管。

- ・項目(5)：九州本部と各県支部（宮崎、熊本、長崎、大分、鹿児島、佐賀）との意思疎通において、隣県同士の連絡会議の場を設定する等によって対応してきた。2026年度も引き続き検討予定である。

3. 第3グループの活動；(1)(8)(9)を所管。

- ・項目(1)：統括本部の役員会や委員会へ出席し、参加して得た情報を基に対応を検討している。
- ・項目(9)：国際的活動に関する事項については、日韓技術士国際会議等がある。統括本部からの情報等を得て対応を検討する予定である。

所属：末松技術士事務所
(E-mail: suematsu@hkg.odn.ne.jp)

委員会・部会報告

研修委員会

2026年度九州本部 第2回CPD報告

委員 にしかわ 西川 くにひろ 晋弘
(建設・福岡)



2026年7月25日(土)、九州本部研修委員会主催の第2回CPDが福岡商工会議所で開催され、会場参加43名・Web参加39名の計82名が参加し、多岐にわたるテーマを扱う研修となった。

講演1.「激動する国際情勢・中国が果たす役割とは—今の中国を知り、日本の未来を解く—」

講師：青木麗子氏(株式会社DLC・GBコンサルティング 代表取締役社長)

激動する国際情勢の中で、日本が国際社会で生き抜くには、現在の中国を正しく理解し、その向き合い方を模索することが重要であると解説された。

講演2.「地図でたどる日本のカタチ ～黄金の国ジパングから伊能図まで～」

講師：佐藤 渉氏(株式会社ゼンリン(ゼンリンミュージアム館長／学芸員))

大航海時代における日本図の変遷と、江戸期の民間図・官製図を比較し、地図が担った多様な役割とその歴史的意義について解説された。

講演3.「技術士の社会的認知と公益確保のための資格活用」

講師：河野千代氏(公益社団法人 日本技術士会 理事／技術士資格活用委員会 委員長／技術士(建設部門))

技術士の社会的活用には、実務が求める資質の明示、制度の検討と会員協力、そして活躍の機会拡大と継続的な取り組みの重要性が解説された。

講演4.「データセンターの電力危機を突破する高効率ニューロモルフィックAIハードウェア『物理リザーバー』とそのロボット応用」

講師：田中啓文氏(九州工業大学生命体工学研究科ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター センター長／博士(工学))

ナノ材料ネットワークがAI計算素子として機能し、CNT系が省電力型ニューロモルフィック技術に有望であり、他分野への応用が期待されることについて解説された。

所属：株式会社エー・アール・イー
(E-mail: k.nishikawa@are-fukuoka.co.jp)

倫理委員会

活動報告

委員長 さとう 佐藤 みつお 光雄
(建設、総合技術監理・大分)



第1回倫理委員会の定例会を6月27日に開催しました。対面の会場は博多石川ビル会議室で、Webを併用して行いました。前回議事録を確認後、今年度の九州本部の事業計画について説明しました。

今年度の活動計画案については、まず連携強化と情報発信を柱とする方針を協議しました。中国本部との共同行事は、11月21日に広島で開催予定です。講師は両本部から各1名を予定し、九州本部からは岩尾委員を推薦します。

高専等の講師依頼についても協議を行い、当面は個人対応を進めることとしました。要請のある高専、大学等とは連携協定締結後に組織対応へ移行します。新規に講師を担当する方々への支援資料の整備も検討します。また、ICT活用とAI倫理啓発を今後の課題として、統括本部倫理委員会作成の倫理コンテンツの活用を進めます。

新倫理綱領第10条については、佐竹委員から解釈についての意見発表があり、継続研鑽に人材育成の視点が加わったこと、IPD(初期専門能力開発)のスムーズスタートを踏まえ、CPDの生涯継続の重要性が報告されました。また、IPDにおいて支援者は指導者ではなく、伴走者として位置づけることが重要であるとの説明がありました。

新しい企画である「法と倫理」の発表者も決定しました。9月は民法、11月は建設業法、2月は環境基本法をテーマに発表します。進行役等は各委員で分担します。

AI活用倫理教材の試作を共有し、講師依頼時に活用できる資料として整備します。

タスクチーム活動報告では、活動管理チームにおいて資料共有環境とメーリングリストの整理が完了しました。教育啓発チームは意見交換を進め、72社へのアンケート礼状送付も完了しました。企画配信チームは「法と倫理」の発表順等を調整しました。統括本部総務委員会、倫理委員会についての、特別な会務報告はありませんでした。

以上の内容を踏まえ、倫理意識向上に向けた活動を継続します。関係機関との連携を強化し、情報発信力の向上にも努めます。

所属：エヌティエス技研株式会社
(E-mail: m-sato@nts-giken.co.jp)

防災委員会

防災委員会活動

委員長 いしもと としあき
石本 俊亮
(建設、総合技術監理・福岡)



◇2026年度活動について

1. 防災委員会の体制について

衛生工学部門と森林部門の技術士2名に参加いただき、本部委員会25名、県支部6名、合計31名の体制で防災委員会活動を進める事になりました。

2. 防災委員会の活動

①定例会

防災委員会では、年4回の定例会を開催しています。

②WG1（防災授業関連）

6月5日に久留米市上津小学校4年生を対象に、「命を守る」防災授業を6月5日に実施しました。

③WG2（防災CPD）

昨年度末に気象に関する防災CPDを実施し好評を得ました。今年度も防災CPDについて企画しています。

④WG3（災害時支援計画SAPD運用計画）

九州本部の災害時支援活動計画(SAPD)の実効性を高める事を目的に、安否確認等について具体的な行動内容の検討を進めています。

3. 他士業との連携活動の推進

2017年の九州北部豪雨災害を契機として、福岡専門職団体連絡協議会が主体となり設立された「被害者支援制度研究会」へ参加し、被災者相談会への参加など活動を行ってきました。この活動を拡大すべく、福岡県以外の士業団体との連携を図ります。

◇令和8年熊本地震への対応

7月28日16時27分に熊本地方でマグニチュード7.1の地震が発生し、高速道路橋の損壊や鉄道施設の損壊等、インフラ施設、ライフライン施設に大きな被害が発生しました。この地震を受け、統括本部防災支援委員会では、7月29日9時に災害支援時支援活動計画（SAPD）に基づき令和8年熊本地震災害復興支援プラットフォームを立ち上げました。復旧・復興事業は、今後本格化するものと思われますが、技術士会として、生活のなりわい再建も含めて、被災地域への支援を実施します。防災委員会としましては、情報の収集、共有を進めることで、技術士会の円滑な活動を進める所存です。

所属：アジア共同設計コンサルタント
(E-mail: toshiaki_ishimoto@yahoo.co.jp)

地域産業支援委員会

「地域企業への支援」を原点に戻って考える

委員長 まつなが えいはちろう
松永 榮八郎
(金属、機械・北九州)



1. 九州本部HP「技術士の窓」サイトからの発信

当活動については、連続して報告してきた。

開始から7月末までの2年間の月間アクセス件数を右グラフに示すが、最近急増している。寄稿者をさらに九州全域の会員に広げる予定であるので、協力をお願いする。これが、技術士会外へのプッシュ型情報の第1ステップである。

2. 技術開発・監理技術等へのニーズ発掘・支援

第2ステップの課題は、真に困っている企業や技術開発志向企業のニーズをどのようにして掴むかである（プル型情報把握）。

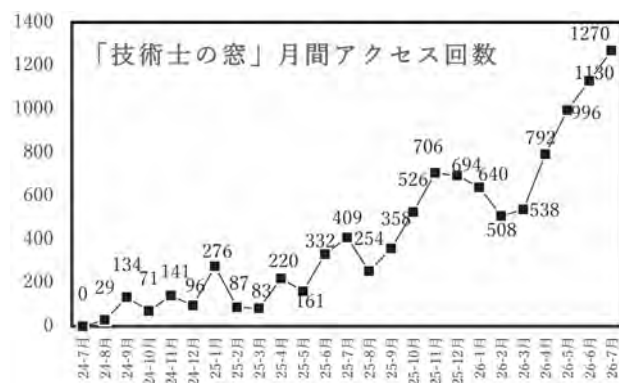
「技術士の窓」にアクセスした企業技術者とコミュニケーションが取れる手段はないか。また、一般のものづくり企業技術者を対象としたオンライン

セミナー等ができないか、次のステップで模索していく。

一方、九州本部ものづくり部会や外部機関とも情報を共有しながら、技術士及び技術士会として技術支援が可能な形態を考えていきたい。

3. 「技術士の窓」の充実

現在活動中の掲載内容を、さらに多様な専門分野の方々に参画頂き、技術士会の知名度向上に務めて頂きたい。



(E-mail: matsu.pebutsu@gmail.com)

委員会・部会報告

青年技術士交流委員会

夏休み小・中学生 自由研究教室

やま だ あきみち
山田 暁通
(情報工学・福岡)



九州本部青年技術士交流委員会では、子供たちの理科離れ・技術者の減少といった社会課題への働きかけとして、子供たちの科学や技術に対する興味・関心を育てることを目的とした「夏休み小・中学生自由研究教室」を実施しており、今回で通算15回となります。

2026年8月1日(土)に開催した今回は、TOTO株式会社所属の技術士(堀内啓史さま・河本理之さま)のご協力のもと、北九州・小倉のTOTOミュージアムを12名の小・中学生(保護者15名)と訪問しました。

1. TOTOミュージアム見学

集合後、2組に分かれてガイドの方に案内してもらいながらTOTOミュージアムを見学しました。TOTOの歴史や、トイレ・水回りを中心とした技術・文化の歴史、世界各国でのトイレの違い、ファインセラミックスや半導体関連事業の話など、幅広い

い展示があり、子供だけでなく保護者・スタッフも聞き入りました。

2. 技術士講話

会議室に移動して、堀内技術士による「ベッドサイド水洗トイレと技術士のお話」と題した講話を聞きました。商品開発時の技術の「壁」を乗り越えて、技術の力で困っている人の問題を解決して笑顔にする「技術者」の仕事の意義と、技術のプロフェッショナルである「技術士」を紹介する内容でした。また、今の「理科・算数」の勉強や、好奇心を持つことの重要性も強く伝わり、興味深く聞いてもらえたようです。

3. おわりに

今回のイベントがトイレという身近なものを通じて技術を知る機会となり、参加者のなかから未来の技術士が生まれることを期待しております。



小・中学生と保護者の集合写真

所属：株式会社ロバストプラン
(E-mail: akimichi@robustplan.com)

北九州地区支部支援委員会

北九州地区支部 合格体験談発表

委員長 **む た ひであき**
牟田 英昭
(建設、総合技術監理・北九州)



若い技術者の第一次試験合格者を増やす取組みとして、地域の大学や企業と連携した受験説明会に力を入れている。今回は6月20日(土)に行った第一次試験合格者体験談の発表内容について紹介したい。

【発表1】久保田美優さん(西日本工業大学 機械工学系3年、機械部門)、タイトル:「これから受験する皆様へ」【大学では】現在卒業研究として「サッカーロボットのソレノイドキッカー機構によるボールの飛行距離制御」に取り組んでいる。電流や電圧、磁気回路の設定でいかに飛行距離を目標値に近づけることができるのかということを研究している。【受験動機】現在の知識や能力が学外でも通用するかどうかを確かめたいと思ったことや、進学や就職の選考時のアピールポイントが欲しかったため。【見えた

こと】自分にとって簡単には理解できない問題に対しても調べを尽くす検索力や粘り強さが受験前よりも身につく、スキルアップに役立っている。今後、設計に関する業務において機械分野を超えて活躍するという夢のため、大学院へ進学し電気分野を新たに学びたい。(会場からエール！)

【発表2】西尾 潤さん(株式会社 三洋コンサルタント、建設部門)、タイトル:「私はこうして一次試験に合格した!～生成AIと試験対策～」【業務】水理模型実験業務。防波堤、護岸における消波ブロックなどの安定実験、越流実験などを行っている。

【受験動機】異業種から転職した。建設分野の技術者として必要な基礎知識を体系的に学習すること。技術士の資格を取得し、会社および社会に貢献するため。【見えたこと】普段利用している道路、橋梁、港湾、空港、鉄道、トンネル、河川、上下水道などの社会基盤が、さまざまな条件や環境への配慮といった制約や工夫のもとで計画・設計・施工されていることを学んだ。技術士第二次試験の受験も視野に入れ、実務経験を積みながら、課題を発見し、技術的に解決できる力を高めて行きたい。(大拍手！)

所属：牟田技術士事務所、西日本工業大学非常勤講師
(E-mail: muta.san06@gmail.com)

試験業務支援委員会

活動報告

委員長 いながき ひろみち
稲垣 浩通
(建設・福岡)



令和8年度技術士二次試験が実施されました。
総監 7月19日(日)福岡工業大学
申込者数304人、必須択一受験者数 255人83.9%
必須筆記受験者数 250人82.2%
総監以外7月20日(祝月)
福岡工業大学
申込者数1954人、必須Ⅰ受験者数 1596人81.7%
必須Ⅱ・Ⅲ受験者数 1515人77.5%
西南学院大学
申込者数831人、必須Ⅰ受験者数 720人86.6%
必須Ⅱ・Ⅲ受験者数 695人83.6%
両校合わせて
申込者数2785人、必須Ⅰ受験者数 2316人83.2%
必須Ⅱ・Ⅲ受験者数 2210人79.4%
北海道、広島に次いで、低い受験率となりました。
合格発表は二次試験筆記試験11月上旬です。そ

の後、口頭試験 令和8年12月上旬～令和9年1月中旬が実施され、最終合格発表は3月中旬になります。

今回二次試験では、受験票忘れの減少が目につきました。総監で1名、20日は福岡工業大学で5名、西南学院大学で3名、と近年希に見る少なさでした。受験料が値上がりした分、受験率は低下していますが、真摯に技術士二次試験に取り組んでいると思います。これから技術士仲間が増えていく事に期待します。

試験終了後の7/29(水)に福岡工業大学、8/5(水)西南学院大学に試験実施のお礼訪問を実施しました。

次に技術士一次試験が
試験日 11月22日(日)
合格発表 令和9年2月
で実施予定です。

試験会場の福岡県内の試験会場に加え、今年より試験地が追加された鹿児島県内施設での実施予定となります。令和8年熊本地震影響の残る熊本県南部や、宮崎県からの受験生増加が見込まれます。鹿児島支部の皆様のご協力を仰ぎ、恙なく一次試験実施を目指します。

所属：株式会社太平洋コンサルタント
(E-mail: Hiromichi_Inagaki@taiheiyo-c.co.jp)

建設部会

建設部会報告

部会長 おかだ ひろあき
岡田 裕彰
(建設、総合技術監理・福岡)



今年度の建設部会の活動予定等について以下の通り報告します。

1. 現地見学会

今年度の建設部会現地見学会は、みどり部会との共同開催とし11月25日(水)に実施することで準備を進めています。

今回は、「有明海沿岸道路」並びに「有明海干潟の再生」をテーマに視察を行う予定です。

有明海沿岸道路は、有明海沿岸の都市群を結ぶことで混雑の緩和や交通安全の確保等を目的として整備が進められています。今回の視察では事業の最新の状況を確認する機会を提供します。

次に、有明海のヘドロ化した底質の改善を図る為に福岡大学の渡辺亮一先生が研究を進めている干潟の再生工法について視察を行う予定です。

具体的な実施内容等はHP等でお知らせしますの

でご確認をお願いします。

多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

2. 技術講演会(CPD)

技術講演会(CPD)のテーマ、実施時期等については現在検討中です。講演会の実施内容の詳細が決まり次第HP等でお知らせいたします。

3. 技術士全国大会について

第52回技術士全国大会が2026年11月6日(金)から金沢市で開催されます。

大会テーマは「北陸から未来を拓く持続可能な社会」で、大会初日の6日には関連行事として「建設部会意見交換会」が開催される予定です。会議は公開でWEBでの聴講も可能です。建設部会会員の皆様の積極的な参加をよろしくお願いします。

4. おわりに

本誌に連載の「土木遺産シリーズ」は、平成27年度から始まり今回で45回目の連載となりました。

この企画は私たちの身近にある歴史的な土木施設等を掘り起こしリレー形式で紹介するものです。

お忙しい中、現地に足を運んで調査を行い執筆にご協力いただいた各県支部の会員の皆様方にあらためて御礼申し上げます。また、引き続きのご協力よろしくお願いたします。

所属：西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社
(E-mail: hiroaki.okada.km@nnr-g.com)

委員会・部会報告

ものづくり部会

活動報告

幹事 ほった げんじ
堀田 源治
(機械・福岡)



今回は、ものづくり部会の活動の一つとして立ち上げを進めている「技術問題解決討論会」についてご報告します。本討論会は、企業や大学等の研究機関が直面しているプロジェクトの課題を、九州オープンイノベーションセンターや大学の産学連携機構などを通じて「ものづくり部会（九州本部）」に取込み、部会構成員が技術・社会・経済的観点から検討を行うものです。そして検討結果に基づき、有益な提案や技術士の派遣などを行います。従来の受け身型CPDとは異なり、技術士が企業の課題解決に主体的に関わることで、製品開発の実現に貢献する活動を目指しています。

本討論会には、主に以下の3つの特徴があります。

(1) **実践的な社会貢献の実現**：単なる知識や知見の

拡張にとどまらず、ものづくり部会本来の使命である「ものづくりへの参加を通じた社会実装の実現」を目指し、技術士に求められる社会的責任を果たします。

(2) **次世代を担う若手技術者の育成**：日本技術士会の提唱する初期専門能力開発（IPD）と緊密に連携し、実際のプロジェクトへの参画を通じて、若手技術者の実務能力向上と育成を図ります。

全国の修習技術者の方はこの機会に是非当部会にご参加ください。

(3) **他部会との連携と全国展開**：課題の性質に応じて技術士会の他部会とも連携・協働することで、問題解決の確実性を高めます。さらに全国展開を図ることで、課題の応用・横展開を進めるとともに、技術士の新たな活躍の場を創出します。

現在、以下のような多様な分野の課題が、具体的解決候補として挙げられています。

- ① 「水田除草ロボット」の実用化支援
- ② 車載部品における「耐振動設計」の技術最適化
- ③ セラミックコンポジットの加工技術
- ④ 海苔養殖の「フィルタの目詰まり」解決

所属：九州工業大学工学部 機械知能工学科

(E-mail: hotta@ga.ariake-nct.ac.jp)

支部だより

佐 賀

春の技術懇話会

～環境の保全による
低炭素社会の実現～

副支部長 こが ひろふみ
古賀 浩史
(建設・佐賀)



令和8年5月21日(木)に「令和8年度第1回技術懇話会」をメートプラザ佐賀で開催しました。佐賀県支部では、会員および県内外の技術者のスキルアップと親交を深めることを目的として、春と秋に技術懇話会(CPD)を開催しています。令和5年度より「環境の保全による低炭素社会の実現」を大テーマとして懇話会を開催しており、今回はこのテーマによる4年目の開催となります。

テーマ1：持続可能なエネルギー運用が創る快適・安全空間—大規模建築の実証と展開

講師：佐賀大学理工学部都市工学部門 教授 小島昌一

建築工学の分野においても、脱炭素を実現するための社会的な役割があるとのこと説明がありました。また、大規模病院を対象としたエネルギー消費の実測データを基に、消費特性を分析し運用改善した例が示されました。部門別のエネルギー消費特性を、

BEMSを活用し分析することで、不具合の早期発見と運用改善が可能であること、冷温水の流量制御・熱源運転順序の最適化で、エネルギー消費やCO₂排出を抑制できた具体例を説明いただきました。さらに、海外の事例を含め、今後の技術者の役割と展望を示されました。

テーマ2：地中熱を利用したカーボンニュートラルへの取り組み

講師：一般社団法人有明末利用熱利用促進研究会 事務局長 原田烈

未利用熱の1つである地中熱の概要と、カーボンニュートラルの取り組みが説明されました。佐賀県内の地中熱ポテンシャルマップの作成や、データベース構築も実施されていました。佐賀県における地中熱導入事例として、SAGAアリーナ、東与賀ビクターセンター、浜玉ハウスみかん等が紹介され、地中熱を利用した既存建築物の改修ZEB化事例も示されました。地中熱の利用は新築建物に限らず、既存構造物や農業分野においても有効であることが示されました。

今後も継続的に技術懇話会(CPD)を開催し、技術力向上と異業種交流に貢献したいと考えています。

所属：株式会社親和テクノ

(E-mail: koga@shinwa-techno.co.jp)

長 崎

長崎県支部年次大会 及び県技術士会総会の開催 について

支部幹事 そのだ 園田 なおし 直志
(建設、CPD認定・長崎)



去る6月6日(土)、諫早市のホテルセンリユウにて、令和8年年度の年次報告会が開催されました。前半は、長崎県技術士会の通常総会が始まり、後半に長崎県支部の年次大会と令和8年度第1回CPD研修会が続き、報告会の終了後には別室で新規合格者3名、研修会講師2名を交えての盛大な交流会となりました。報告会は42名、交流会は26名の参加者でした。

長崎県支部の年次大会は、山口昭光支部長の挨拶の後に(1)令和7年度事業実績(2)令和7年度収支報告及び監査報告(3)令和8年度の活動方針・事業計画・収支予算案(4)その他の報告として、日本技術士会の組織、九州本部会員数、九州における技術士登録数などの説明がありました。

CPD研修会は、2つの演題がありました。①「自然災害を自分事化する災害伝承碑の地域実装の取り組みについて」講師：高橋和雄：長崎大学名誉教授、②「海洋における鉄など微量栄養物質の動態に関する研究」講師：近藤能子：長崎大学大学院総合生産科学研究科准教授の講演です。講演会終了後は活発な質疑応答があり、充実した研修会となりました。

交流会においては、新規合格者の紹介や参加者相互の近況報告等の意見交換が行われ、楽しい交流会となりました。



所属：N.ソノダ技術士事務所
株式会社ネオグローブ
(E-mail: sonoda_naoshi@icloud.co)

大 分

大分県支部年次報告会 及びCPD研修会の開催

支部幹事 あべ 安部 つとむ 勉
(建設、総合技術監理・大分)



去る6月20日、大分市内で大分県支部と大分県技術士協議会合同の年次報告会が参加者35名(うち合格者2名)の参加のもと開催されました。

報告会は湯地支部長の挨拶から始まりました。次に、佐藤事務局長より令和7年度事業報告並びに令和8年度事業計画についての説明があり、前期は収支バランスの取れた決算となり、今期も前期の予算を踏襲してバランスある予算の執行を心掛けていきたいとの事でした。その後、その他報告事項として、CPD研修担当の植木氏より、今後のCPD研修会の予定や2027年度CPD研修会に向けての講師の依頼状況等の報告や、青年技術士交流委員の松原氏より、大分高専での講義「技術者倫理及び技術史」の講師依頼および講義担当体制についての説明がありました。

また、今回の研修会は、エヌティエス技研(株)の佐藤講師より『先人に学ぶ“志向倫理”』の演題で講演をいただきました。現代人が受けている「見えない支配」から抜け出すために、「涵養教育」の重要性や「純粋直観」を獲得することが現代社会を生き抜くための「志向倫理の原点」であることが認識できました。

報告会終了後は、さらに合格者4名が加わり、祝賀会を兼ねた懇親会が開催されました。竹内協議会会長による乾杯で始まり、各所で活発な意見交換が行われ、途中、新規合格者6名の自己紹介や今後の抱負等の発表が行われました。

最後に、松原副支部長による一本締めで会を締め、散会となりました。



所属：株式会社安部組
(E-mail: abe-t.abe@shirt.ocn.ne.jp)

CPD報告

福岡

研修委員会 2026年度九州本部 第1回CPD報告

副委員長 なかぞの 中園 けんいち 健一
(建設・福岡)



2026年5月23日(土)、九州本部研修委員会主催による第1回CPDを福岡商工会議所において、会場44名、Web52名の合計96名の参加者で開催した。

講演1.「水災害への備えについて」

講師：田原 秀樹氏

(国土交通省九州地方整備局河川部水災害予報センター 水災害対策専門官)

気候変動により激甚化する水災害に対し、あらゆる関係者が協働する流域治水の考え方と、九州地方整備局の取組事例について解説された。

講演2.「技術者のための『マーケティング入門』—“社長！それって本当に売れますか？”—」

講師：野村 利則氏

(野村技術士事務所代表／博士(学術)、技術士(情報・総監部門))

マーケティングの理論とフレームワークを概観し、ビールを題材とした戦略立案の模擬事例を通して、技術者が持つべき視点について解説された。

講演3.「土木偉人・沼田尚徳技師に学ぶ技術者の魅力と矜持」

講師：松永 昭吾氏

(横浜国立大学豊穠な社会研究センター・元気なインフラ研究所長／博士(工学)、技術士(建設・総監部門))

河内貯水池を手がけた沼田尚徳技師の功績をたどり、分業・分断が進む社会における技術者の矜持について解説された。

講演4.「柔軟物の応用と評価—ソフトロボットから医療デバイスまで—」

講師：高嶋 一登氏

(九州工業大学大学院生命体工学研究科准教授、バイオメディカルデバイス・イノベーションセンター長／博士(工学))

形状記憶材料を用いたソフトロボットの要素技術、血管内治療用の触覚センサ、手術シミュレータの開発事例について解説された。

所属：有限会社エーシーソーイング
(E-mail: nakazono@ac-s.jp)

長崎

長崎県支部第1回 CPD研修会報告

支部幹事 こだま 児玉 えいじ 英治
(環境・長崎)



長崎県支部の令和8年度第1回CPD研修会が6月6日の年次大会終了後に開催されましたので、その内容を報告します。(参加者53名)

演題1.「自然災害を自分事化する災害伝承の地域実装の取組み」

講師：高橋 和雄氏(長崎大学名誉教授)

本講演では、先人が遺した災害碑や災害遺構、地域の口伝を減災に生かすための学術調査と地域実装の取り組みが紹介された。先人が地域に遺した災害碑等は災害の記憶を風化させず「自分事化」するための貴重な資料であるが、防災・減災に生かし切れていない。例として、雲仙普賢岳の火砕流で被災した大野木場小学校保存上の課題と解決を挙げられた。第5回ジオパーク国際ユネスコ会議において、

2012年島原宣言が出された。また、長崎市山川河内地区では、江戸、明治および昭和時代に災害を受け、水害記念碑と碑文が残されている。今後は、国や都道府県、市町村連合が登録主体となることも検討すべきだと述べられた。

演題2.「海洋における鉄など微量栄養物質の動態に関する研究」

講師：近藤 能子氏(長崎大学大学院 准教授)

水産資源の再生産システムでは、光、水、栄養物質が必要であり、海洋における主栄養塩には窒素、リン、ケイ素の3つがあると述べられた。また、光合成、クロロフィルの生成、窒素の代謝には鉄の役割が大きいとも述べられた。北太平洋亜寒帯域の溶存鉄分布の調査によれば、北太平洋の中深層では、北太平洋中層水を介して溶存鉄が供給される。海水に難溶な鉄が高濃度で輸送されるメカニズムの謎に対し、鉄と錯体を形成する有機物(有機配位子)の分布調査を実施した結果、西側の鉄と有機配位子の濃度が高濃度で存在することが確認された。このことから縁辺海から有機配位子を伴って輸送されている実態が明らかになったと述べられた。

所属：児玉技術士事務所
(E-mail: kodama21@ngs2.cncm.ne.jp)

大 分

大分県支部 CPD報告

研修委員長 う え き 植木 か ず ひ ろ 和宏
(建設、総合技術監理・大分)



令和8年度の第1回CPD研修会(通算62回)は、予定通り5月23日(土)に、大分県教育会館大ホールとWEB講習会を併用し、大分県支部主催、大分県測量設計コンサルタンツ協会の協力、大分県土木施工管理技士会の後援で開催されました。

講演1:「鋼製砂防構造物」(嶋丈示先生)では、近年の土石流に加え、流木や土砂・洪水氾濫を伴う複合化・大規模化の傾向にある土砂災害は、従来の不透過型砂防堰堤による貯留主体の対策のみでは対応が難しくなっている背景のもと、土砂の流れ方の違いに着目し、鋼製透過型砂防堰堤における礫捕捉機構と設計の基本的な考え方について解説いただきました。実例を多数示され、また成果報告資料も配布され、非常に充実した講演でした。

講演2:「大分県のGXに向けた取り組みについて」(阿部浩孝先生)では、令和6年1月に策定され「グ

リーン・コンビナートおおいた推進構想」、および令和7年度新設「産業GX推進室」のGX施策、産学官連携のもとに設立された大分県エネルギー産業企業会の取組について報告いただきました。

講演3:「大分県で近年の災害と減災を考える」(三崎貴弘先生)では、近年、我が国では記録的な降雨が観測され、大分県においても、同様な災害が多く発生している中、2023年6～7月にかけて梅雨前線の影響による大雨で実施した災害対応及び被災地区の住民の避難行動について紹介、日常的な避難行動に繋げる取り組みを紹介いただきました。

講演4:「他人事でないサイバーセキュリティ～完璧な対策はありえるのか?～」(池部実先生)では、サイバーセキュリティに関する対策をしないと大小に拘わらず活動が継続できない状況になっていることを踏まえ、企業活動を継続させるためにどのような取り組みをすればよいかを解説いただきました。

講演5:「PCプレテンション桁におけるPC鋼材の破断検知」(垣花寿先生)では、3軸磁気センサによる漏洩磁束法を適用、プレテンションに使用されるPC鋼材の破断本数と位置に関する検知性能の検証実験をについて、PC鋼材腐食度の把握により、残存耐荷性能の評価精度に寄与するとの報告をいただきました。第2回は9月12日の予定です。

所属：株式会社レックス九州
(E-mail: k.ueki@re-cs.co.jp)

鹿児島

第51回 CPD講演会報告

副支部長 た か あ ぜ 高畦 ひ ろ し 博
(建設、総合技術監理・鹿児島)



1. はじめに

8月1日(土)、鹿児島市勤労者交流センターで開催し、30名(会員28名、うちWEB参加2名)の参加者があった。直前の28日に熊本地震により、鹿児島と北部九州の動脈が途絶し、講師の交通路確保に懸念が生じたため、来鹿を見合わせていただいた。講演会に先立つ年次大会では、2025年事業報告、2026年事業計画などの説明、CPD活動実績登録の促進に向けた説明があった。

2. 講演1「鹿児島県民有林における山地災害の実態分析及び「気象災害の見える化」」講師：井内祥人氏(博士(農学)、技術士(フェロー：森林：CPD認定)、県支部長)

マスコミ等で定性的に表現される災害を定量的な評価手法により災害規模の大小を評価する研究成果が報告された。1964年から2021年までの鹿児島県内の山地災害におけるデータ分析では、時間雨量と

年度ごとの災害回数、期間雨量と年度ごとの災害箇所数などの指標から関係性を整理された。分析結果から山地災害箇所数が減少傾向にあることが報告された。要因として治山事業によって安全性が向上していると考察されている。今後の課題として、無秩序な皆伐採が年々増加傾向にあり、樹木が一定の材齢に達するまでの災害対策を進めていく必要性を述べられている。

3. 講演2「沿岸域における漂流物・有害粒子の移動予測と防災・維持管理への応用」

講師：長山 昭夫(鹿児島大学学術研究院 理工学域工学系 海洋土木工学専攻、博士(工学))

講演では、漂流物や軽石などの移動を粒状物質として捉え、模型実験やシミュレーションなどで挙動を予測する研究が報告された。海上の軽石移動では、海岸地形や軽石の密集具合が移動速度や堆積位置に影響を与えていることの紹介があった。鹿児島県上甕島浦内湾では、赤潮移動、滞留状況をこの手法で確認した事例が紹介された。昨年の霧島・始良地方の豪雨による流木を仮想粒子として扱い、風、河川流量によって漂流範囲が拡大したとする報告があった。津波の到達に関する研究では、九州南東部から種子島・屋久島などでは、離島の西海岸にも津波の影響があることが報告された。豊富な話題からなる講演であった。

所属：大福コンサルタント株式会社
(E-mail: hiroshi.takaaze@nifty.ne.jp)

会員ニュース

公益社団法人 日本技術士会(九州本部) 入会

〈令和 8 年 2 月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
沖 縄 正会員	内田 耕平	機 械：Uchi-Tech 経営工学 情報工学 総合技術監理	
福 岡 正会員	岡田 直士	電気電子：株式会社九電工鹿児島支店	

〈令和 8 年 3 月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福 岡 正会員	太田 孝一	建 設：福岡県那珂県土整備事務所 南畑・五ヶ山ダム管理出張所	
鹿児島 正会員	須田木 諭	建 設：国土交通省北陸地方整備局能 登復興事務所	
福 岡 正会員	林 遼平	建 設：日本工営株式会社交通政策事 業部交通計画部	
長 崎 正会員	松尾 一弘	建 設：株式会社長崎測量設計技術部	
福 岡 正会員	水野 剛秀	建 設：新和商事株式会社九州支店 総合技術監理	
福 岡 正会員	吉崎 成洋	農 業：キリンホールディングス株式会社 生物工学 Lion pty Ltd Kirin technical	
沖 縄 正会員	江田 知史	総合技術監理：株式会社国建まちづくり計画部	
大 分 正会員	上村 昌己	総合技術監理：ソニーセミコンダクタマニ ファクチャリング株式会社	
大 分 正会員	川原 太郎	総合技術監理：株式会社日建コンサルタント	
宮 崎 正会員	久保 三男	総合技術監理：日測コンサルタント株式会社	
福 岡 正会員	立山 誠	総合技術監理：株式会社九電送配サービス福岡サービス センター技術サービス2グループ	
福 岡 正会員	堤 清	総合技術監理：東日設計コンサルタント株式 会社九州支店	
宮 崎 正会員	徳永 大輔	総合技術監理：株式会社日本触媒川崎製造所 エンジニアリング部	
鹿児島 正会員	中村 初男	総合技術監理：株式会社建設技術コンサルタ ンツ技術部	
長 崎 正会員	馬場 一孝	総合技術監理：有限会社吉川土木コンサルタ ント品質管理室	
鹿児島 正会員	本地 雄一	総合技術監理：鹿児島県大隅地域振興局建設部	
福 岡 正会員	本田かおり	総合技術監理：福岡県環境部	
福 岡 正会員	八木 孝志	総合技術監理：株式会社日水コン コンサルティ ング本部下水道事業部西部施設部	
熊 本 正会員	安永 昌史	総合技術監理：株式会社長田測量設計	
鹿児島 正会員	結城 要	総合技術監理：株式会社新日本技術コンサル タント総合設計部	
福 岡 準会員	西川 修作	機 械：西日本技術開発株式会社河川部	
長 崎 準会員	藤田 惇平	電気電子：アークレイ長崎開発センター 株式会社NGK本部	
福 岡 準会員	高木 康裕	金 属：日本製鉄株式会社品質保証部	
熊 本 準会員	笠田 雄司	建 設：株式会社オックスコンサルタ ント技術部	
宮 崎 準会員	黒木 祐丞	建 設：宮崎県門川町役場	
大 分 準会員	嶋崎 将人	建 設：有限会社エス・コウ工事業部	
熊 本 準会員	高田 泰二	建 設：株式会社ガイアート工事業部	
長 崎 準会員	橋村 泰紀	建 設：株式会社クラフティア宇久島 事業開発支社宇久島統括部	

宮 崎 準会員	日高 健斗	建 設：株式会社国土開発コンサルタ ント技術部
福 岡 準会員	古家秀一郎	建 設：株式会社豊和
福 岡 準会員	出水 健太	上下水道：古富町役場
長 崎 準会員	櫻村 直樹	衛生工学：三菱重工業株式会社GTCC 事業部安全環境管理部
福 岡 準会員	黒谷 透	農 業：株式会社技術開発コンサルタ ント技術部
福 岡 準会員	井上 太樹	森 林：日本工営株式会社福岡支店基 盤技術部
福 岡 準会員	草場 智哉	水 産：株式会社建設技術研究所九州 支社河川部
佐 賀 準会員	山本 宏樹	水 産：金子産業株式会社
熊 本 準会員	城戸美智子	環 境：株式会社九州自然環境研究所

〈令和 8 年 4 月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福 岡 正会員	中川 功	電気電子：株式会社安川電機インバータ事業部	
福 岡 正会員	中川 義夫	電気電子：西日本技術開発株式会社エネ ルギーソリューション本部	
沖 縄 正会員	安部雄治郎	建 設：株式会社仲本工業土木部	
大 分 正会員	宇都宮 隆	建 設：株式会社河野測量設計設計部 総合技術監理	
熊 本 正会員	乙丸 正彦	建 設：東和測量設計株式会社技術部	
福 岡 正会員	片岡 健	建 設：シーアンドエスエンジニアリ ング株式会社技術部	
熊 本 正会員	杉村 重憲	建 設：株式会社大進コンサルタント 総合技術監理 本社技術部	
熊 本 正会員	高田 泰二	建 設：株式会社ガイアート工事業部	
福 岡 正会員	田村 敏宏	建 設：株式会社みなもと都市設計設計部	
佐 賀 正会員	九十九 督	建 設：株式会社ワイビーエムサービス 技術営業部	
福 岡 正会員	津曲 信吾	建 設：若築建設株式会社福岡支店	
鹿児島 正会員	平岡 博志	建 設：国土交通省九州地方整備局 総合技術監理 川内川河川事務所	
福 岡 正会員	古川 久敏	建 設：三井化学株式会社 生産・技術本部エンジニアリ ングセンター	
長 崎 正会員	松尾 一弘	建 設：株式会社長崎測量設計技術部	
福 岡 正会員	松下 慎	建 設：株式会社環境分析技術センター調査部	
鹿児島 正会員	和田 伸一	建 設：霧島市上下水道部	
佐 賀 正会員	井上 英明	上下水道：多久市役所 農 業 森 林	
福 岡 正会員	津田 伸夫	上下水道：株式会社東京設計事務所 総合技術監理	
熊 本 正会員	洲上 弘樹	上下水道：熊本市上下水道局維持管理部 総合技術監理 電気電子	
長 崎 正会員	宮原 裕享	上下水道：佐世保市水道局事業部	
長 崎 正会員	山口 真紀	上下水道：長崎県土地改良事業団体連合会	
福 岡 正会員	伊藤 拓也	衛生工学：一般財団法人日本環境衛生セ ンター西日本文局環境事業部	

熊 本	正会員	小川 領一	衛生工学：東海大学文理融合学部
沖 縄	正会員	佐和田健一	農 業：株式会社シグマ設計部 情報工学
長 崎	正会員	金久 拓	森 林：株式会社アールデ 応用理学
佐 賀	正会員	古川 哲也	生物工学：味の素株式会社九州事業所製造部 環 境
熊 本	正会員	城戸美智子	環 境：株式会社九州自然環境研究所
福 岡	準会員	今福 周作	電気電子：九州旅客鉄道株式会社折尾工務所
長 崎	準会員	植木 英夫	電気電子：株式会社エコ・プラン
長 崎	準会員	藤本 浩晃	電気電子：タケックス株式会社
大 分	準会員	甲斐 修	建 設：株式会社カイ設計事務所設計部
宮 崎	準会員	宮島 圭次	建 設：都城市役所環境森林部
大 分	準会員	飯田 和彦	森 林：大分県東部振興局農山漁村振興部
沖 縄	準会員	松尾 篤志	水 産：株式会社ツナドリーム沖縄
福 岡	準会員	王 蒙蒙	環 境：九州クリーン工業株式会社 西部事業所
長 崎	準会員	牟田建治郎	環 境：長崎市役所建築部

〈令和 8 年 5 月〉

(所在地) (区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福 岡	正会員	梅田 賢治	電気電子：東芝Elコントロールシステム 上下水道 株式会社 総合技術監理
長 崎	正会員	箴島 秀利	化 学：株式会社エステック21 総合技術監理
大 分	正会員	赤嶺 雄一	建 設：大分県日田土木事務所 総合技術監理
沖 縄	正会員	安里 祥	建 設：沖縄県環境部 環 境
福 岡	正会員	梅田 祐樹	建 設：九州旅客鉄道株式会社建設工事業部
福 岡	正会員	片山 和紬	建 設：日本工営株式会社福岡支店 国土保全部
長 崎	正会員	川島 徳光	建 設：長崎県庁水産部
長 崎	正会員	高橋 善郎	建 設：株式会社谷川建設
福 岡	正会員	中條 信也	建 設：シビックアーツコンサルタント 株式会社営業部
鹿児島	正会員	中俣 敏朗	建 設：株式会社大翔技術部 総合技術監理
福 岡	正会員	中山 一樹	建 設：日本工営株式会社福岡支店 流域水管理部
沖 縄	正会員	橋口 和哉	建 設：日本工営株式会社沖縄支店 防衛基盤整備部
沖 縄	正会員	橋本 拓実	建 設：日本工営株式会社沖縄支店 防衛基盤整備部
佐 賀	正会員	増野 光男	建 設：パシフィックコンサルタンツ 上下水道 株式会社PM事業本部
福 岡	正会員	牟田 貴裕	建 設：一般財団法人久留米市開発公社
福 岡	正会員	矢倉 貴文	建 設：日本工営株式会社福岡支店 流域水管理部
福 岡	正会員	横小路孝裕	建 設：株式会社南日本技術コンサル タンツ技術部
熊 本	正会員	米村 浩介	建 設：米村技術士事務所 総合技術監理
福 岡	正会員	河北 洋平	上下水道：北九州市役所上下水道局水道部 機 械 穴生浄水所
熊 本	正会員	洲上 弘樹	上下水道：熊本市上下水道局維持管理部 総合技術監理

福 岡	正会員	箱石 寛太	農 業：日本工営株式会社福岡支店 流域水管理部
宮 崎	正会員	宮下 敦典	農 業：株式会社海老原測量設計コン サルタント
福 岡	正会員	沼 優里奈	応用理学：日本工営株式会社福岡支店 基盤技術部
沖 縄	正会員	高山 雪菜	環 境：日本工営株式会社沖縄支店 基盤技術部
大 分	準会員	川野 健太	建 設：株式会社日技
大 分	準会員	後藤 忠行	建 設：株式会社日技
熊 本	準会員	山崎 将司	建 設：株式会社前田産業
福 岡	準会員	巖 厚亮	衛生工学：株式会社吉浦環境事業部
福 岡	準会員	大島 竣介	応用理学：日鉄エンジニアリング株式会社 プラント本部設計部

〈令和 8 年 6 月〉

(所在地) (区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
沖 縄	正会員	仲吉 将一	建 設：日本工営株式会社沖縄支店 環 境 基盤技術部
沖 縄	正会員	宮城 祥平	建 設：株式会社沖縄エンジニアリング 設計部
沖 縄	正会員	宮津 智文	建 設：内閣府沖縄総合事務局
大 分	正会員	森 優	建 設：朝日工業テクノス株式会社 安全品質環境部
鹿児島	正会員	濱田 恭暢	衛生工学：公益財団法人鹿児島県環境 環 境 保全協会
沖 縄	正会員	松村 法行	森 林：大日本ダイヤコンサルタント 応用理学 株式会社九州支社沖縄支店
福 岡	正会員	石田 雄二	経営工学：西日本工業大学工学部 総合システム工学科
福 岡	正会員	小野 秀史	建 設：株式会社エイト日本技術開発 応用理学 本社EJイノベーション技術 総合技術監理 センター
宮 崎	準会員	吉田 光宏	建 設：西部技建コンサルタント宮崎支店

ご案内

第46回地域産学官と技術士との合同セミナー(福岡)

開催日時：2026年10月17日(土) 10:00~17:00

開催場所：福岡商工会議所 406~407会議室

テーマ「技術と社会(人間)とのつながり・共存と共創
～総合知を求められる技術士への期待～」

第1部 基調講演

九州大学大学院経済学研究院教授 高田 仁氏

「技術と人の関係性～VUCA時代の大変革(仮題)」

第2部 各機関からの報告

《官》経済産業省九州経済産業局地域経済部

産業技術革新課長 小倉章弘氏

《学》久留米工業大学教授・学長補佐AI応用研究

所長 小田まり子氏

《産》建築家・株式会社大中央代表取締役社長

松岡恭子氏

《技術士》㈱福山コンサルタント開発統括

新領域推進室 青島巨佐氏

※詳細については九州本部HPをご覧ください。

協賛団体会員

.....[福 岡].....	[佐 賀].....	[大 分].....
(株)エム・ケー・コンサルタント	朝日テクノ株式会社	九建設計(株)
(株)カミナガ	(株)エスジー技術コンサルタント	協同エンジニアリング(株)
(株)建設環境研究所九州支社	九州技術開発(株)	ダイエーコンサルタント(株)
(株)建設技術研究所九州支社	(株)九州構造設計	東洋技術(株)
(株)久栄総合コンサルタント	(株)コスモエンジニアリング	東洋測量設計(株)
産業開発コンサルタント(株)	新栄地研(株)	西日本コンサルタント(株)
(株)サンコンサル	(株)親和コンサルタント	(株)日建コンサルタント
ジーアンドエスエンジニアリング株式会社	精工C&C(株)	日進コンサルタント(株)
(株)CTIグランドプランニング	(株)トップコンサルタント	松本技術コンサルタント(株)
第一総合技術(株)	西日本総合コンサルタント(株)	[宮 崎].....
第一復建(株)	日本建設技術(株)	(株)アップス
大成ジオテック(株)	シマウチエンジニアリング(株)	九州工営(株)
大和コンサル(株)	[長 崎].....	(株)ケイディエム
(株)高崎総合コンサルタント	扇精光コンサルタンツ(株)	(株)国土開発コンサルタント
(株)テクノ	(株)実光測量設計	(株)白浜測量設計
西鉄シー・イー・コンサルタント(株)	大栄開発(株)	南興測量設計(株)
西日本技術開発(株)	太洋技研(株)	(株)西田技術開発コンサルタント
西日本コントラクト(株)	(有)吉川土木コンサルタント	(株)東九州コンサルタント
(株)西日本測量設計	[熊 本].....	(株)都城技建コンサルタント
日鉄鉱山コンサルタント(株)九州本社	旭測量設計(株)	[鹿児島].....
日本工営(株)福岡支店	(株)ARIAKE	(株)久永コンサルタント
日本地研(株)	(株)九州開発エンジニアリング	(株)南日本技術コンサルタンツ
富洋設計(株)九州支社	(株)熊本建設コンサルタント	(株)アジア技術コンサルタンツ
パンフィックコンサルタンツ株式会社九州本社	(株)興和測量設計	大福コンサルタント(株)
平和測量設計(株)	(株)コンサルハマダ	
(株)唯設計事務所	(株)ジョーナンテクニカル	
.....[北九州].....	(株)大進コンサルタント	
(株)永大開発コンサルタント	(株)ヒライ・コンサルタント	
(株)松尾設計	(株)水野建設コンサルタント	

次 回 の 予 告 (第150号 令和9年1月)

○第46回地域産学官と技術士との合同セミナー

編 集 後 記

7月28日に熊本で震度7の地震が発生し、尊い命が失われました。亡くなられた方々に深く哀悼の意を表し、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。昨年の技術士全国大会は熊本で開催され、熊本城の復旧状況や道路・橋梁の復興の取組を伺ったばかりであり、今回の報には大きな衝撃を受けました。

一方で、高速道路では被害が生じたものの、脱落防止装置が機能し落橋を防ぐことができました。過去の震災の教訓から整備された対策が社会の安全に結びついた事例といえます。

災害や事故の教訓を次へつなぎ、より安全で強靱な社会を築くことこそ技術士に求められる役割であると感じています。復旧・復興に携わる技術者の努力に敬意を表し、私たち自身も専門性を活かして社会のさらなる安全向上に積極的に取り組んでまいりたいと思います。

(倉成)

編集：広報委員

【福 岡】 久保川孝俊、棚町 修一、西尾 行生
原田 正則、松田 敦、倉成 真一
【北九州】 宮崎 照美 【佐 賀】 合志 勉
【長 崎】 清水 正明 【大 分】 竹内 一博
【熊 本】 沼地 英二 【宮 崎】 神田 稔弘
【鹿児島】 高畦 博

発 行：公益社団法人 日本技術士会九州本部
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-19-5
(博多石川ビル6階D2号室)
九州本部： ☎(092)432-4441
FAX(092)432-4443
E-mail:pekyushu@nifty.com
九州本部ホームページURL：
<http://www.pekyushu.com/>
印 刷：株式会社チューエツ